

17. 産婦人科臨床研修カリキュラム

【特徴】

当院産婦人科は、地域周産期母子センターとして、さまざまな産科救急症例や、ハイリスク妊娠の治療、分娩を行っている。また婦人科手術症例も多く、良性疾患に対する腹腔鏡、膣式、開腹手術、早期癌の治療を行なっている。さらにユニセフ・WHO 認定の「赤ちゃんにやさしい病院」として活動している。このため、初期研修医に必要とされる分娩、手術、処置、母乳育児の基本知識を習得し、幅広い疾患に対応する技能、考え方を養うことができる。

I. 研修指導者

副院長 (兼) 主任科部長 産婦人科部長	房 正規 太田 岳人	産婦人科医長 産婦人科医師	生橋 義之 荒井 貴子
----------------------------	---------------	------------------	----------------

II. 週間スケジュール

	午 前	午 後
月	モーニングミーティング グループ回診	手術 病棟超音波検査
火	初診外来	病棟 症例カンファレンス
水	病棟 手術	母子カンファレンス(月 2 回)
木	再診外来	病棟 両親学級 副直
金	モーニングミーティング グループ回診	手術 外来超音波検査

III. 一般目標

産婦人科診療を適切に行なう上で必要な基礎的知識、技能、態度を習得する。

IV. 行動目標 経験目標 (内診や産科的処置は、すべて指導医の下で行なう。)

基本的事項

産婦人科特有のプライバシーに配慮し、適切な問診、診察ならびに記載ができる。

A. 産科

(1) 妊娠管理

- 1) 正常妊娠における母体、胎児の生理的変化を理解できる。
- 2) 尿中妊娠反応の陽性出現時期を理解し、実施できる。

- 3) 妊娠を診断し、週数と予定日の計算ができる。
- 4) 妊婦の定期検診ができ、切迫流産、切迫早産、妊娠中毒症の有無を判断できる。
- 5) 子宮底長を測定し、レオポルド触診法で胎児を確認できる。
- 6) 超音波断層法によって胎児計測を行ない、胎児の評価ができる。
- 7) 合併症のある妊婦において、妊娠の影響、妊娠に与える影響を認識できる。
- 8) 妊娠中に使用可能な薬剤について述べることができる。
- 9) 流早産の応急処置ができる。

(2) 分娩時、産褥期の管理

- 1) 分娩経過を判断することができる。
- 2) 陣痛・胎児心拍の計測ができ、その異常を指摘できる。
- 3) 常位胎盤早期剥離、前置胎盤について述べることができる。
- 4) 児娩出の介助、児の処置、臍帯・胎盤の処置ができる。
- 5) 会陰切開を行ない、その縫合ができる。
- 6) 軟産道の損傷の有無を診断できる。
- 7) 帝王切開の適応を判断でき、帝王切開術の介助ができる。
- 8) 産褥期の子宮底の高さが判断でき、産褥期の生理的变化を述べることができる。

(3) 新生児

- 1) Apgar 指数を評価できる。
- 2) 新生児の日常的ケアができる。
- 3) 新生児のスクリーニング検査ができる。

B. 婦人科

(1) 婦人科的診察

- 1) 子宮の大きさの判定ができる。
- 2) 膣鏡を用いて子宮腔部が観察でき、子宮頸部、膣部細胞診が実施できる。
- 3) 経膣超音波断層法により、内性器や病巣の描出と読影ができる。

(2) 婦人科疾患の取り扱い

- 1) 子宮筋腫、卵巣嚢腫が指摘でき、治療方針を述べることができる。
- 2) 婦人科悪性腫瘍の治療方針について述べることができる。
- 3) 急性腹症としての婦人科疾患を列举し、それらの診断のポイントを述べることができる。
- 4) 婦人科感染症（外陰炎、膣炎、骨盤腹膜炎）の診断、治療ができる。

(3) 性機能とホルモン

- 1) 月経周期について理解し、基礎体温測定法、避妊法について説明ができる。
- 2) 卵巣機能障害、更年期障害の診断、治療ができる。
- 3) 不妊症の一般的知識と治療について述べることができる。